

乳腺外科

【プログラムの特徴】

現在、我が国では年間 10 万人に近い方が新たに乳癌と診断されており、女性のがん罹患率の第 1 位となっています。本邦の乳癌は 40～50 代で罹患率が高く、職場でも家庭でも中心的な役割を担う世代で発症します。乳癌の診療自体を行う機会が増える事はもちろん、乳腺外科以外の医師でも乳癌を既往に持つ患者さんを診療する機会も考慮すると、乳癌診療を学んでおくことはとても大切なことと思われまます。乳癌診療は、外科的切除にとどまらず、化学療法、内分泌療法、放射線療法による集学的治療が行われるようになり、乳腺外科は「がん治療に関する総合診療科」の色合いが強くなっています。また、乳癌を治療していく過程では切除術式、乳房再建、薬物療法、妊孕性の問題など、患者自身が治療法を選択する場面が少なくありません。そのため、外来診療では患者・家族と十分なコミュニケーションをとりながら、患者一人一人に「自分にとって最適な治療」を選択してもらう必要があります。このようにコミュニケーションスキルを習得することも乳腺外科研修の特徴といえます。

最後に、乳腺外科では「楽しく充実した研修」を目標としています。手術や診療の合間で交わされる先進医療、基礎研究などの経験談も、将来の「医師像」をイメージする上で参考になると考えています。ぜひ私たちと一緒に、最新の乳癌診療について勉強していきましょう。

乳腺外科研修は下記のような先生方を受け入れております。

- 1：将来的に乳腺外科を考えている方
- 2：放射線科や産婦人科などの志望であるが、乳腺外科領域を勉強しておきたい
- 3：乳腺外科以外の外科系志望で、一般外科医としての基本的な手術手技を身につけたい
- 4：癌診療を行っている内科系志望で、薬物療法の基本や治療方針の組み立て方など癌診療の基本を習得したい

その他、特に将来については何も決まっていないという先生方も歓迎しております。乳腺外科を回って何か新しいことが見つかるかもしれません。

【研修到達目標】

- 1：外科手技、特に皮膚縫合などを習得する
- 2：マンモグラフィー、超音波など乳腺領域特有の画像を読影できるようになる
- 3：化学療法、内分泌療法、放射線療法を含めたがんの集学的治療を理解する
- 4：エビデンスを元にした治療の組み立て方を理解する

【研修スケジュール】

	月	火	水	木	金
朝	再建手術カンファレンス	リハビリカンファレンス	回診	回診	回診
午前	手術	外来	外来	手術	手術
午後	手術	外来	外来	手術	外来/手術
夕	術前カンファレンス	回診	回診	病理カンファレンス	回診

【研修期間】

手術手技、コミュニケーションスキルの習得には2か月以上の研修が望ましいが、1か月の短期研修も受け入れている。

【定員】

1名（同時期に受け入れ可能な研修医数）

【研修計画責任者及び研修指導医】

研修計画責任者 兼 研修指導医 乳腺外科 部長 山本 晋也